

第132回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和7年10月～12月期

2025年9月の日銀短観調査によると、大企業製造業の業況判断DIは緩やかに景気の持ち直しが続くなか、前回調査から1ポイント改善し、15となった。

トラック運送業界においては、今期、輸送数量の減少、労働力不足などマイナス要因が作用したものの、補助金拡充による燃料調達価格の下落、運賃料金水準の改善基調を反映し、営業利益、経常利益が改善傾向に転じたことを背景に、景況感は前回▲24.1から▲22.4～1.7ポイント改善した。

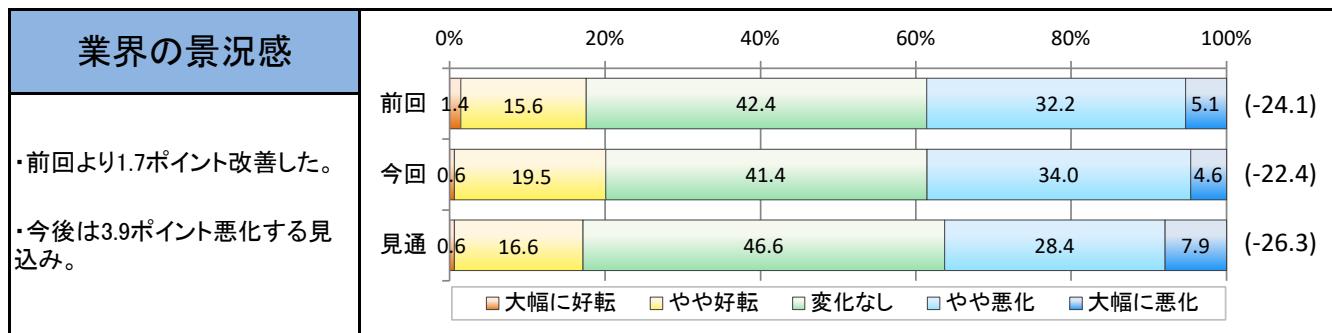
なお、来期の見通しは、物価高や運送原価の上昇等により、景況感は今回▲22.4から▲26.3～3.9ポイント悪化する見込みである。

令和8年2月16日

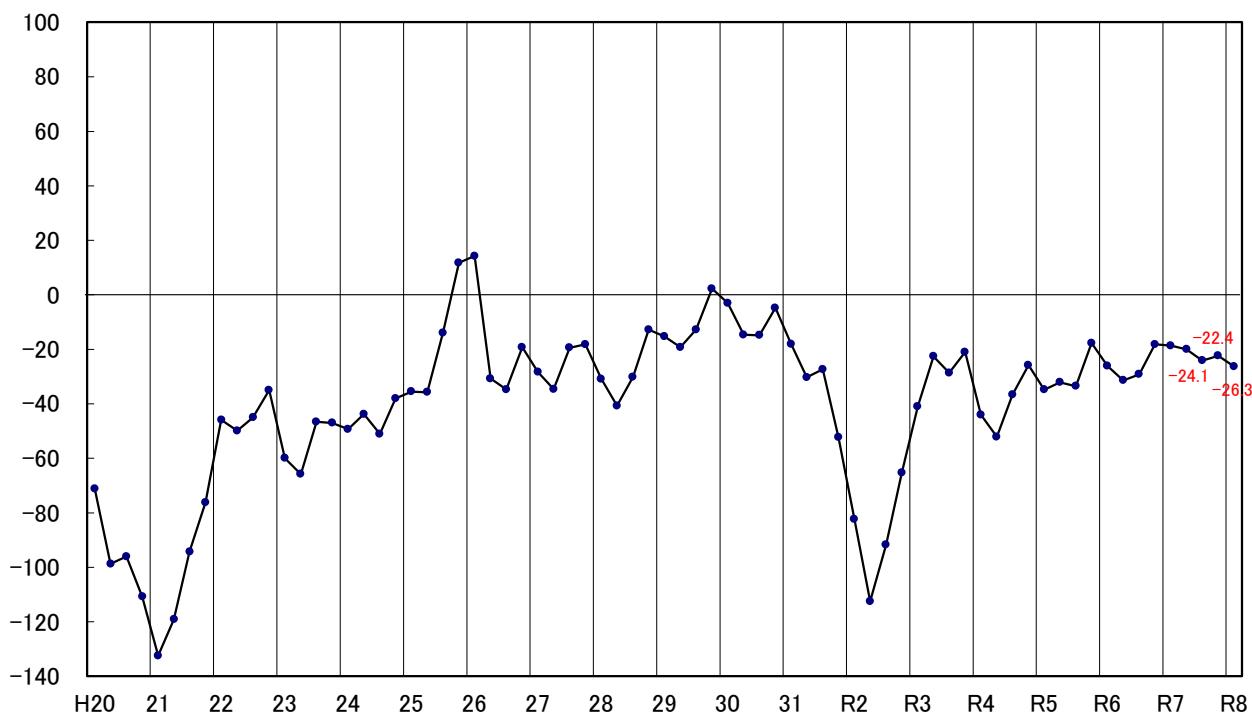
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感: 今回(令和7年10月～12月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	・今期、輸送数量の減少、労働力不足などマイナス要因が作用したものの、補助金拡充による燃料調達価格の下落、運賃料金水準の改善基調を反映し、営業利益、経常利益が改善傾向に転じたことを背景に、景況感は前回▲24.1から▲22.4へ1.7ポイント改善した。
今後の見通し	・来期の見通しは、物価高や運送原価の上昇等により、景況感は今回▲22.4から▲26.3へ3.9ポイント悪化する見込みである。



トラック運送業界の景況感(業況判断DI)の推移



(注1)各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R7.7月～9月期)の状況、中段は今回(R7.10月～12月期)の状況、下段は今後(R8.1月～3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2)各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

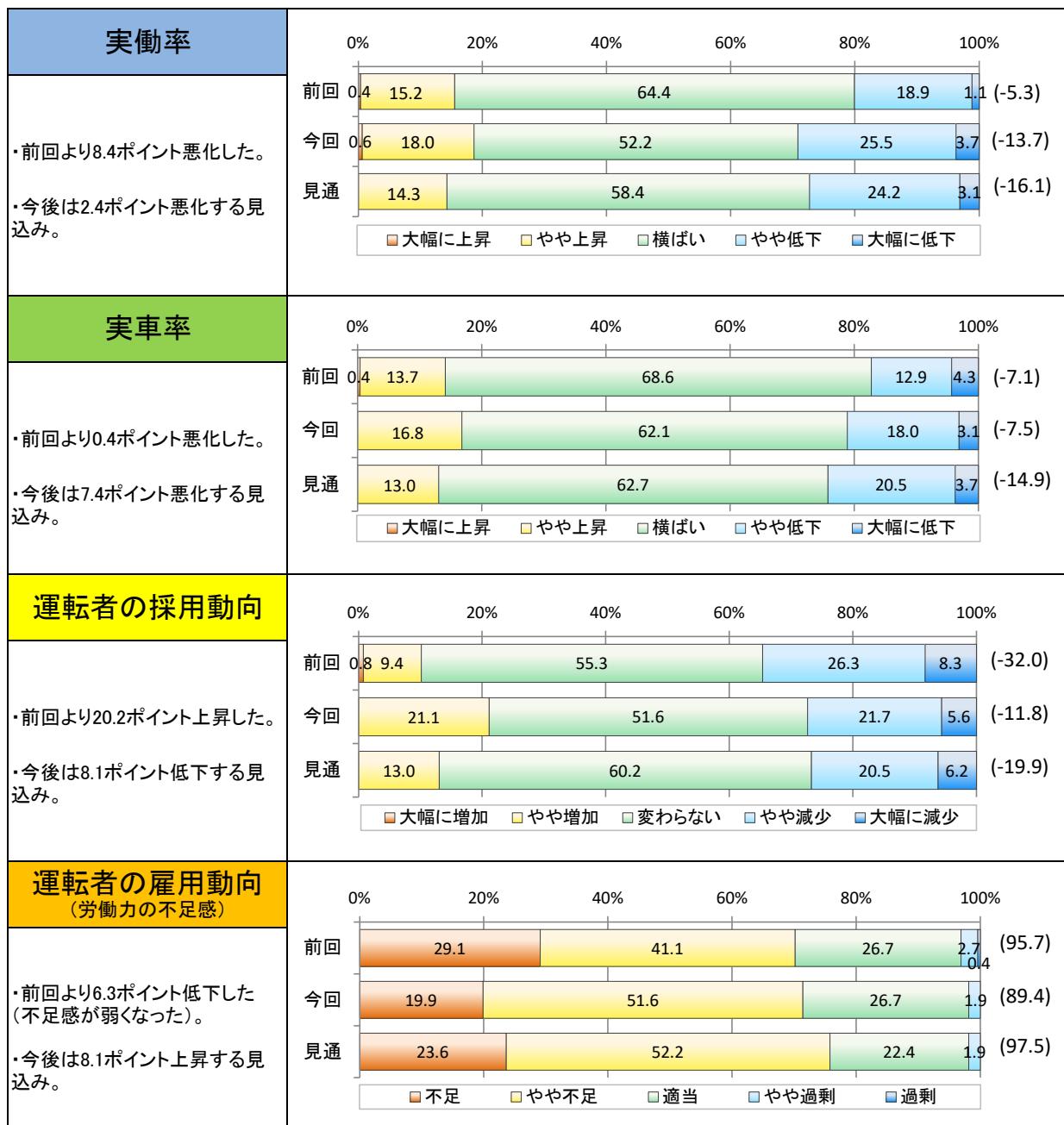
(注3)各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

A(設問Aの回答者数)=a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

指標={(+2×a1)+(+1×a2)+(0×a3)+(-1×a4)+(-2×a5)}÷A×100

2 共通の概況①: 今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

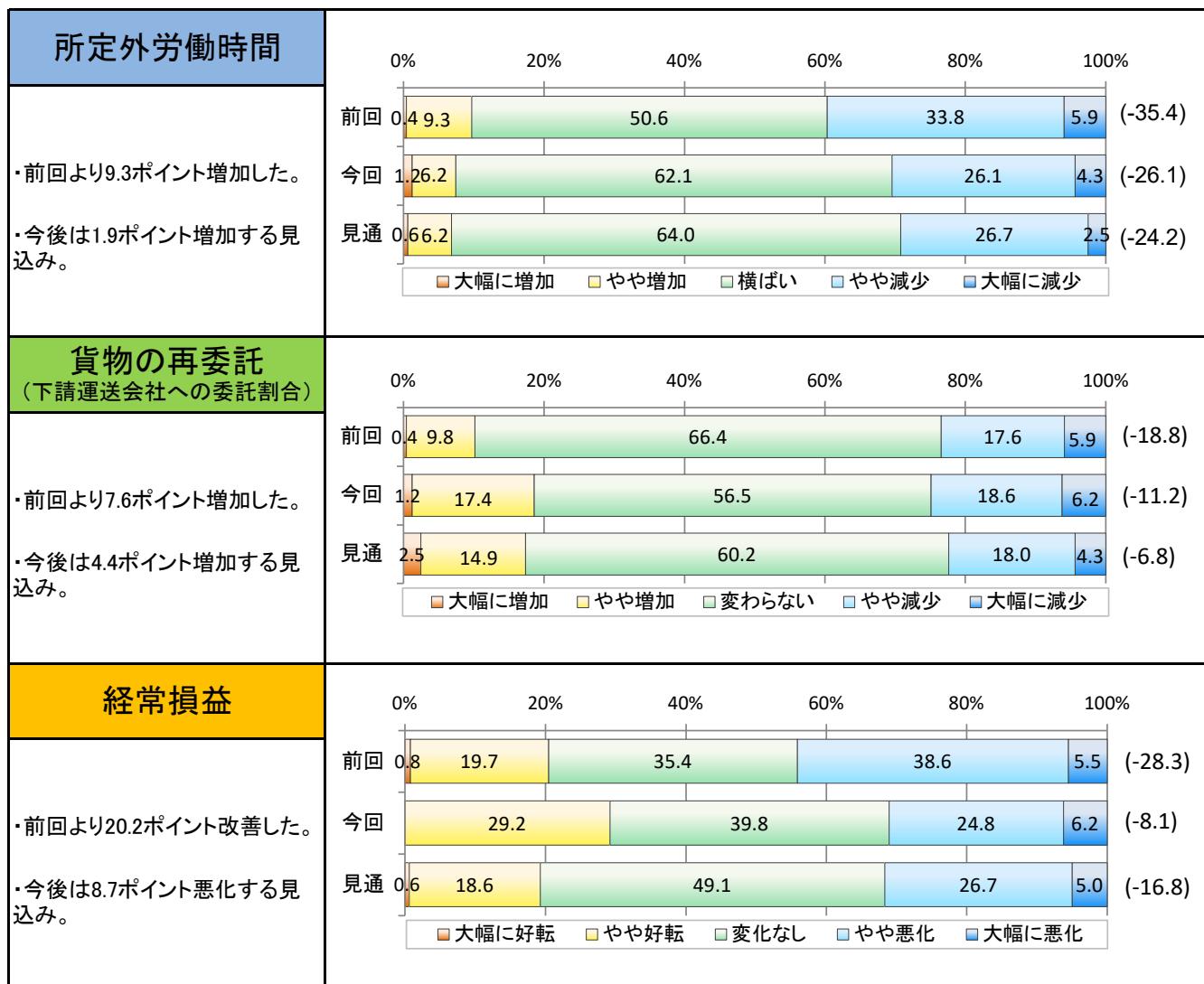
今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 実働率は▲13.7(前回▲5.3)と8.4ポイント悪化、実車率は▲7.5(前回▲7.1)と0.4ポイント悪化し、輸送効率は悪化した。 運転者の採用動向は▲11.8(前回▲32.0)と20.2ポイント上昇、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は89.4(前回95.7)と6.3ポイント低下し、労働力の不足感は弱くなった。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 実働率は▲16.1(今回▲13.7)と2.4ポイント悪化、実車率は▲14.9(今回▲7.5)と7.4ポイント悪化する見込みである。 運転者の採用動向は▲19.9(今回▲11.8)と8.1ポイント低下し、運転者の雇用動向は97.5(今回89.4)と8.1ポイント上昇し、労働力の不足感は強くなる見込みである。



(注4)雇用状況については、上段は前回(R7.7月～9月期)の状況、中段は今回(R7.10月～12月期)の状況、下段は今後(R8.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②: 今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲26.1(前回▲35.4)と9.3ポイント増加、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲11.2(前回▲18.8)と7.6ポイント増加した。 経常損益は、補助金拡充による燃料調達価格の下落を反映し、▲8.1(前回▲28.3)と20.2ポイント改善した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間は▲24.2(今回▲26.1)と1.9ポイント増加し、貨物の再委託は▲6.8(今回▲11.2)と4.4ポイント増加の見込みである。 経常損益は、物価高や運送原価の上昇等により、▲16.8(今回▲8.1)と8.7ポイント悪化する見込みである。



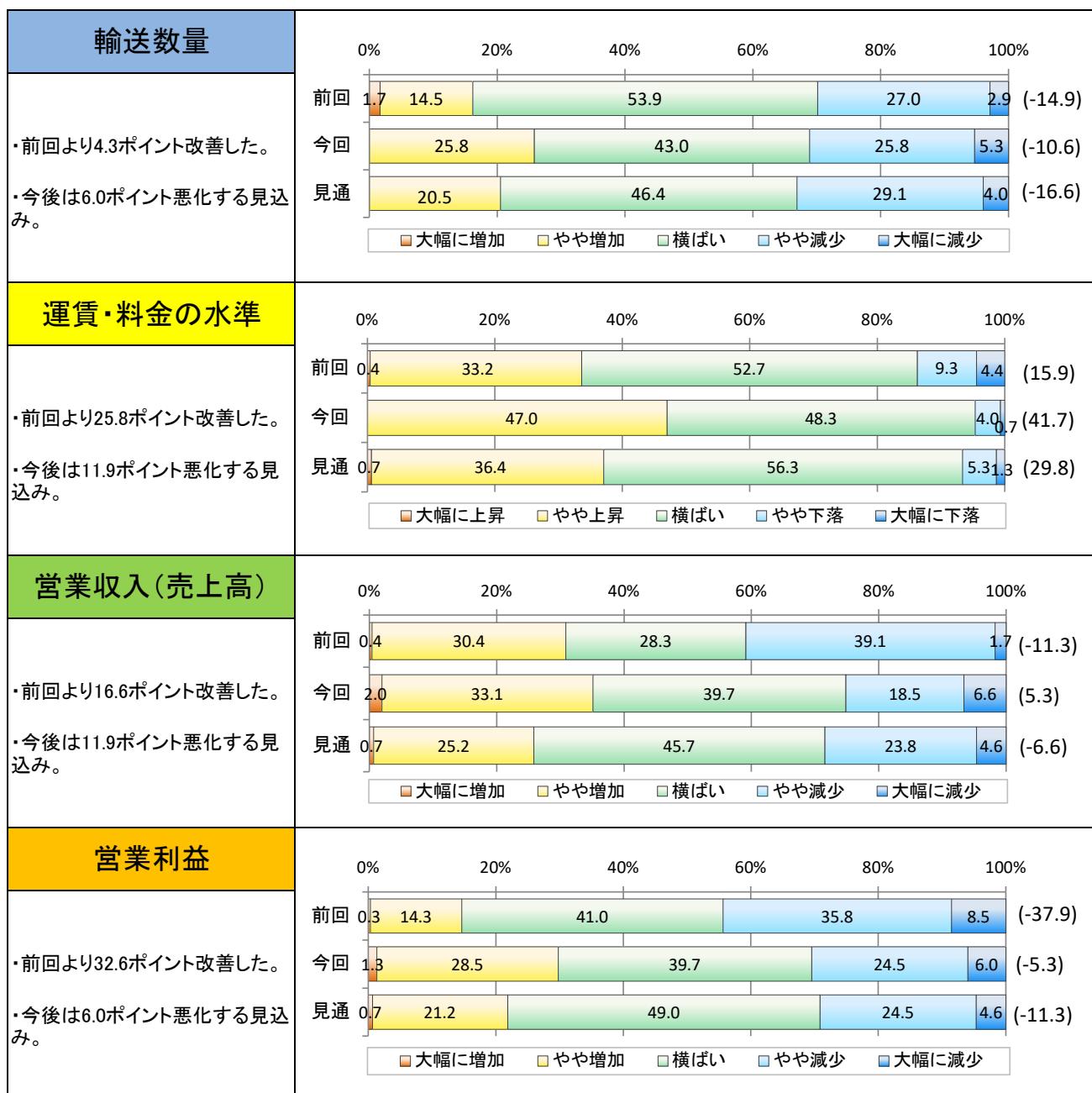
【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第132回調査は、令和8年1月5日に、モニターに対して調査開始、令和8年1月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者 全体
79	421	483

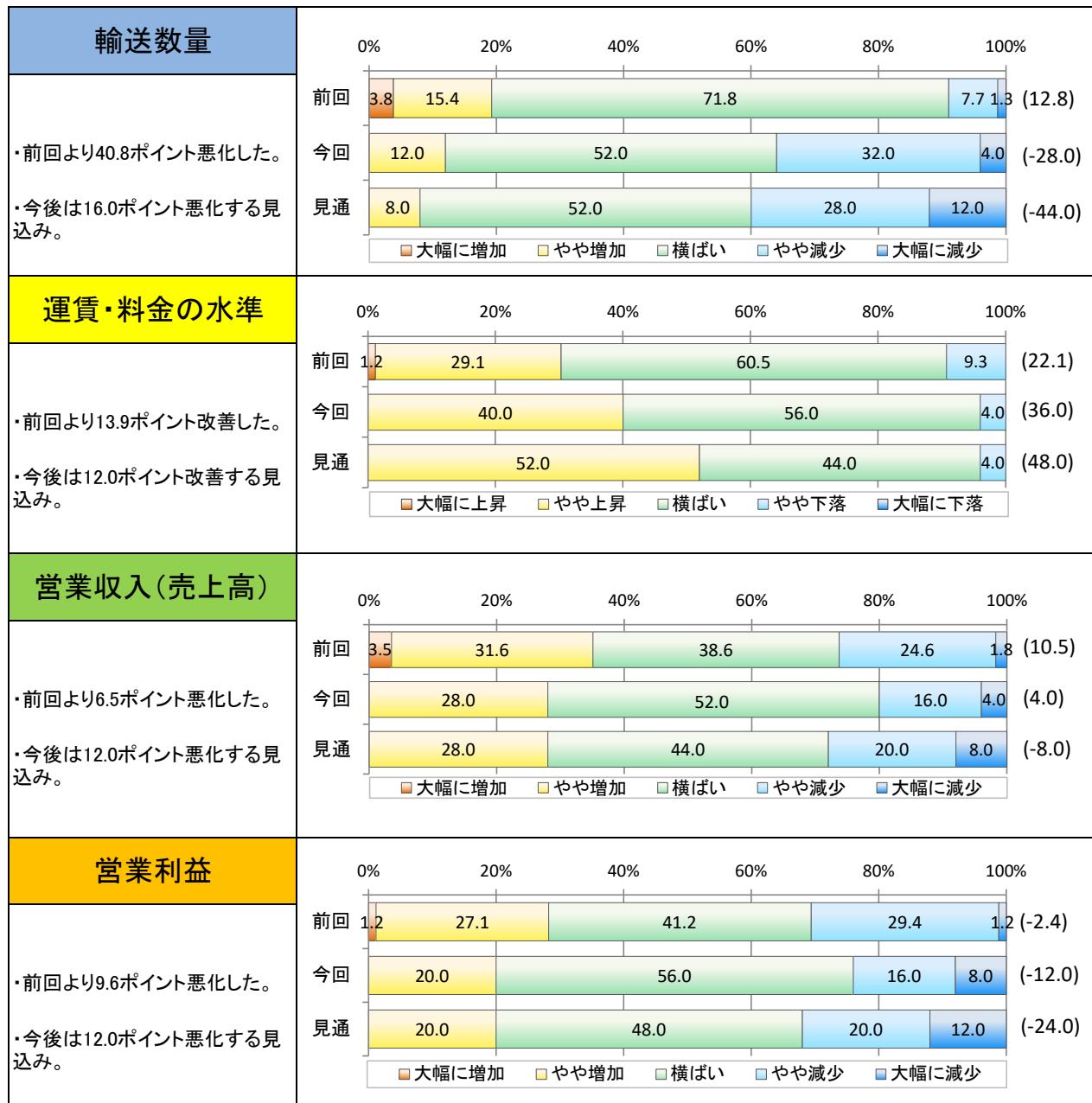
4 一般貨物:今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲10.6(前回▲14.9)と4.3ポイント改善、運賃・料金の水準は41.7(前回15.9)と25.8ポイント改善したことから、営業収入(売上高)は5.3(前回▲11.3)と16.6ポイント改善した。 営業利益は補助金拡充による燃料調達価格の下落を反映し、▲5.3(前回▲37.9)と32.6ポイント改善した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は▲16.6(今回▲10.6)と6.0ポイント悪化、運賃・料金の水準は29.8(今回41.7)と11.9ポイント悪化することから、営業収入(売上高)は▲6.6(今回5.3)と▲11.9ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、来期の事業環境の不透明感を反映し、▲11.3(今回▲5.3)と6.0ポイント悪化する見込みである。



5 特積貨物:今回(令和7年10月～12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、輸送数量は▲28.0(前回12.8)と40.8ポイント悪化したものの、運賃・料金の水準は36.0(前回22.1)と13.9ポイント改善し、営業収入(売上高)は4.0(前回10.5)と6.5ポイント悪化した。 営業利益は▲12.0(前回▲2.4)と9.6ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、運賃・料金の水準は48.0(今回36.0)と12.0ポイント改善するものの、輸送数量は▲44.0(今回▲28.0)と16.0ポイント悪化し、営業収入(売上高)は▲8.0(今回4.0)と12.0ポイント悪化する見込みである。 営業利益は▲24.0(今回▲12.0)と12.0ポイント悪化する見込みである。



※特積貨物の指数は、「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」の各指数を統合

6 事業者特性別の特徴①: 規模別・品目別 業界の景況感

規 模 (注5)	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模事業者 : ▲9.7(前回12.6)と22.3ポイント悪化、今後は▲2.8と6.9ポイント改善見通し。 ・中規模事業者 : ▲11.9(前回▲24.9)と13.0ポイント改善、今後は▲15.6と3.7ポイント悪化見通し。 ・小規模事業者 : ▲42.9(前回▲29.3)と13.6ポイント悪化、今後は▲51.8と8.9ポイント悪化見通し。 																																												
品 目 (注6)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費関連貨物 : ▲11.1(前回▲26.4)と15.3ポイント改善、今後は▲10.2と0.9ポイント改善見通し。 ・建設関連貨物 : ▲33.3(前回▲14.3)と19.0ポイント悪化、今後は▲33.3と横ばい見通し。 ・機械関連貨物 : ▲34.7(前回▲20.2)と14.5ポイント悪化、今後は▲58.3と23.6ポイント悪化見通し。 ・その他貨物 : ▲21.6(前回▲35.6)と14.0ポイント改善、今後は▲29.4と7.8ポイント悪化見通し。 																																												
	<p>事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>大規模</th> <th>中規模</th> <th>小規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R6. 1~3月期</td><td>0</td><td>-25</td><td>-35</td></tr> <tr><td>R6. 4~6月期</td><td>-10</td><td>-28</td><td>-42</td></tr> <tr><td>R6. 7~9月期</td><td>10</td><td>-25</td><td>-45</td></tr> <tr><td>R6. 10~12月期</td><td>20</td><td>-18</td><td>-25</td></tr> <tr><td>R7. 1~3月期</td><td>18</td><td>-18</td><td>-25</td></tr> <tr><td>R7. 4~6月期</td><td>18</td><td>-18</td><td>-25</td></tr> <tr><td>R7. 7~9月期</td><td>18</td><td>-22</td><td>-25</td></tr> <tr><td>R7. 10~12月期</td><td>12.6</td><td>-24.9</td><td>-29.3</td></tr> <tr><td>見通し R8. 1~3月期</td><td>-9.7</td><td>-11.9</td><td>-42.9</td></tr> <tr><td>見通し R8. 4~6月期</td><td>-2.8</td><td>-15.6</td><td>-51.8</td></tr> </tbody> </table>	期間	大規模	中規模	小規模	R6. 1~3月期	0	-25	-35	R6. 4~6月期	-10	-28	-42	R6. 7~9月期	10	-25	-45	R6. 10~12月期	20	-18	-25	R7. 1~3月期	18	-18	-25	R7. 4~6月期	18	-18	-25	R7. 7~9月期	18	-22	-25	R7. 10~12月期	12.6	-24.9	-29.3	見通し R8. 1~3月期	-9.7	-11.9	-42.9	見通し R8. 4~6月期	-2.8	-15.6	-51.8
期間	大規模	中規模	小規模																																										
R6. 1~3月期	0	-25	-35																																										
R6. 4~6月期	-10	-28	-42																																										
R6. 7~9月期	10	-25	-45																																										
R6. 10~12月期	20	-18	-25																																										
R7. 1~3月期	18	-18	-25																																										
R7. 4~6月期	18	-18	-25																																										
R7. 7~9月期	18	-22	-25																																										
R7. 10~12月期	12.6	-24.9	-29.3																																										
見通し R8. 1~3月期	-9.7	-11.9	-42.9																																										
見通し R8. 4~6月期	-2.8	-15.6	-51.8																																										

(注5) 規模別分類

大規模事業者 : 101両以上

中規模事業者 : 21両以上100両以下

小規模事業者 : 20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物 : 農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物 : 林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物 : 電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

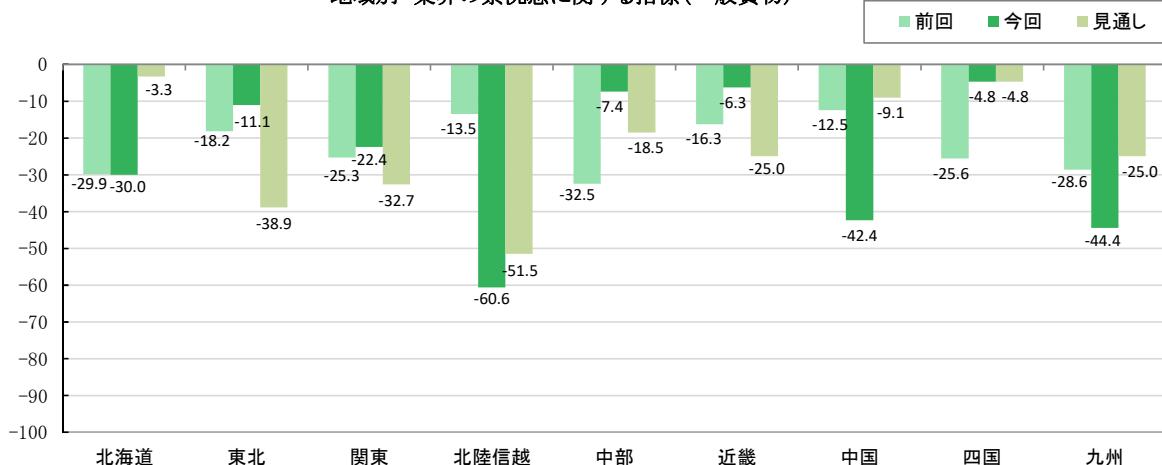
その他貨物 : 石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性別の特徴②:地域別・事業形態別 業界の景況感等

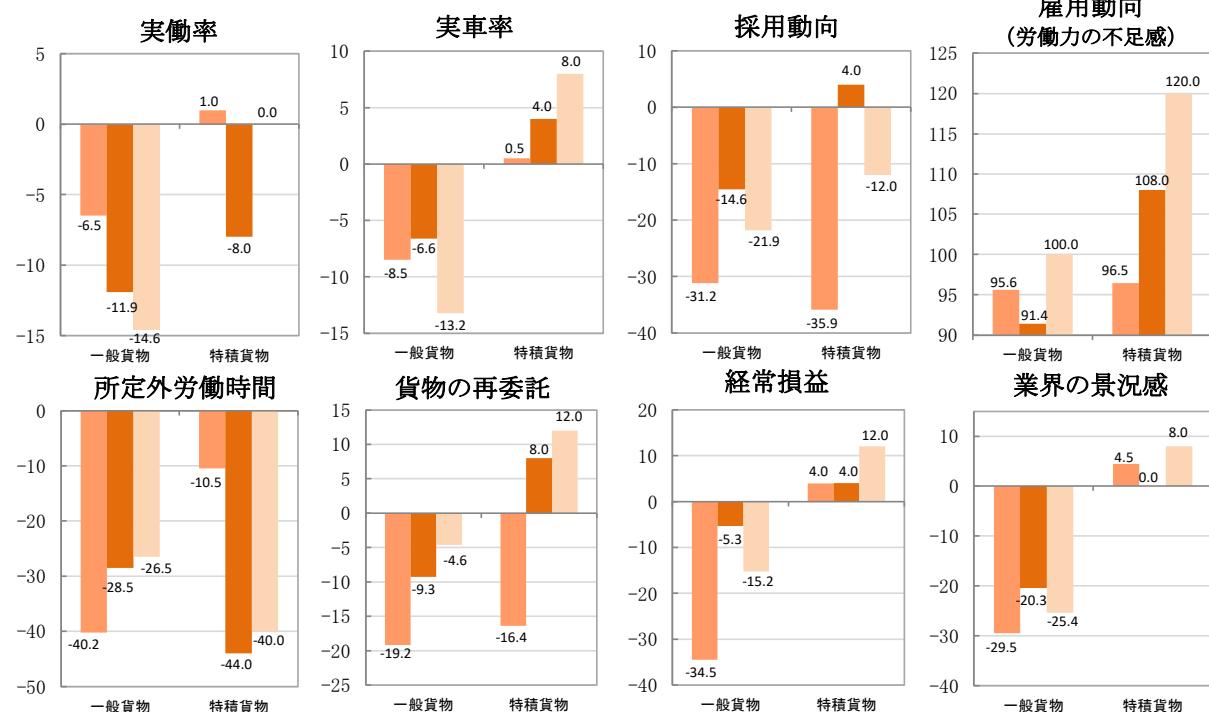
地域 (注7)	<ul style="list-style-type: none"> 今期改善したのは、東北、関東、中部、近畿、四国であり、悪化は北海道、北陸信越、中国、九州である 来期見通しは、北海道、北陸信越、中国、九州が回復し、四国は横ばい、東北、関東、中部、近畿が悪化の見通しである。
------------	--

地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



事業形態別 (注8)	<ul style="list-style-type: none"> 雇用動向:一般貨物、特積貨物とともに、深刻な人材不足を反映し、労働力の不足感が強くなる見通しである。 経常損益:一般貨物では補助金により燃料調達価格が下落し、今期の経常損益は回復した。 業界の景況感:一般貨物は経常損益の改善を織り込み、▲20.3と9.2ポイント改善、特積貨物は0.0と4.5ポイント悪化したが、来期は改善の見通しである。
---------------	---

■前回 ■今回 ■見通し

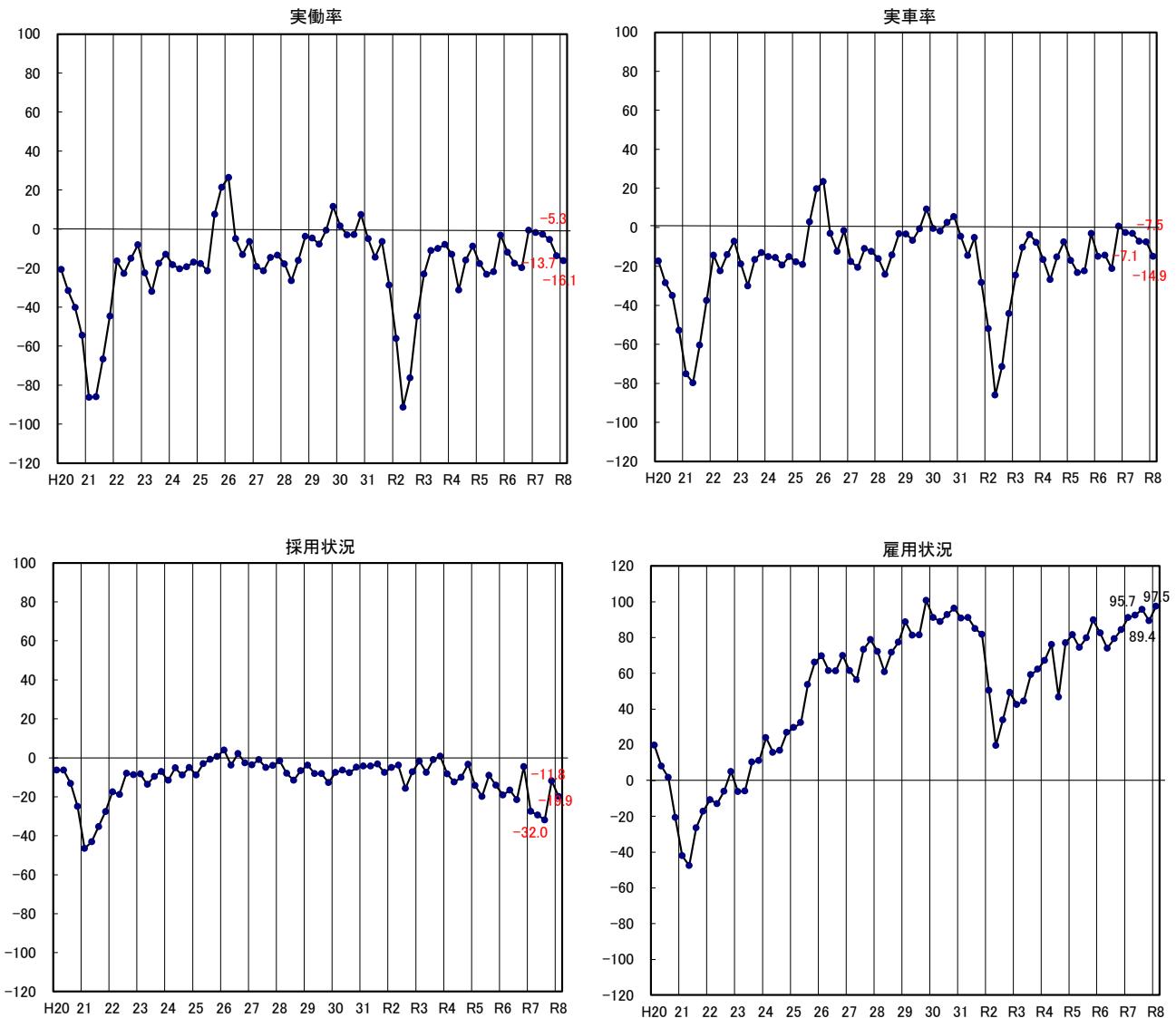


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

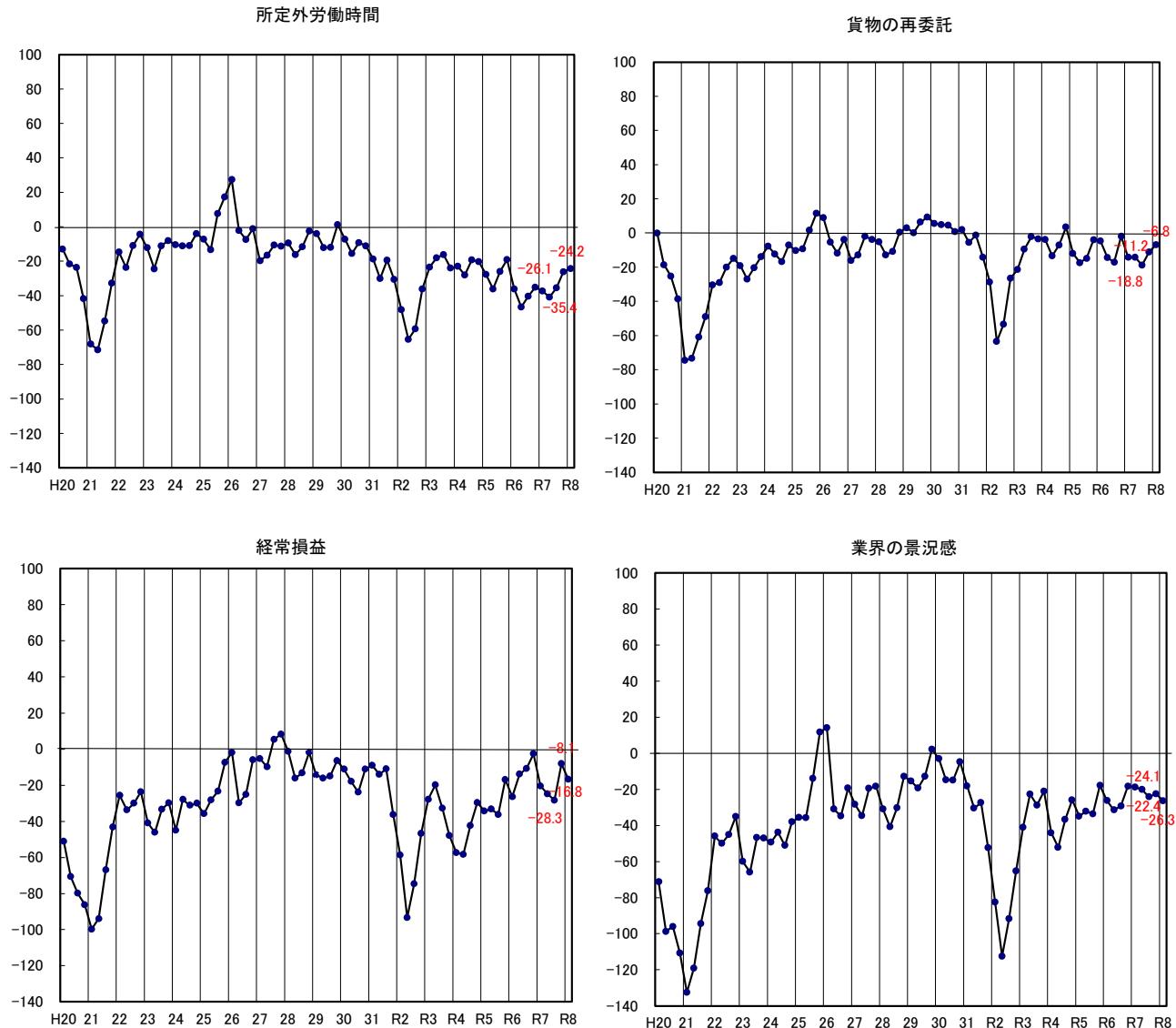
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

共通の概況①



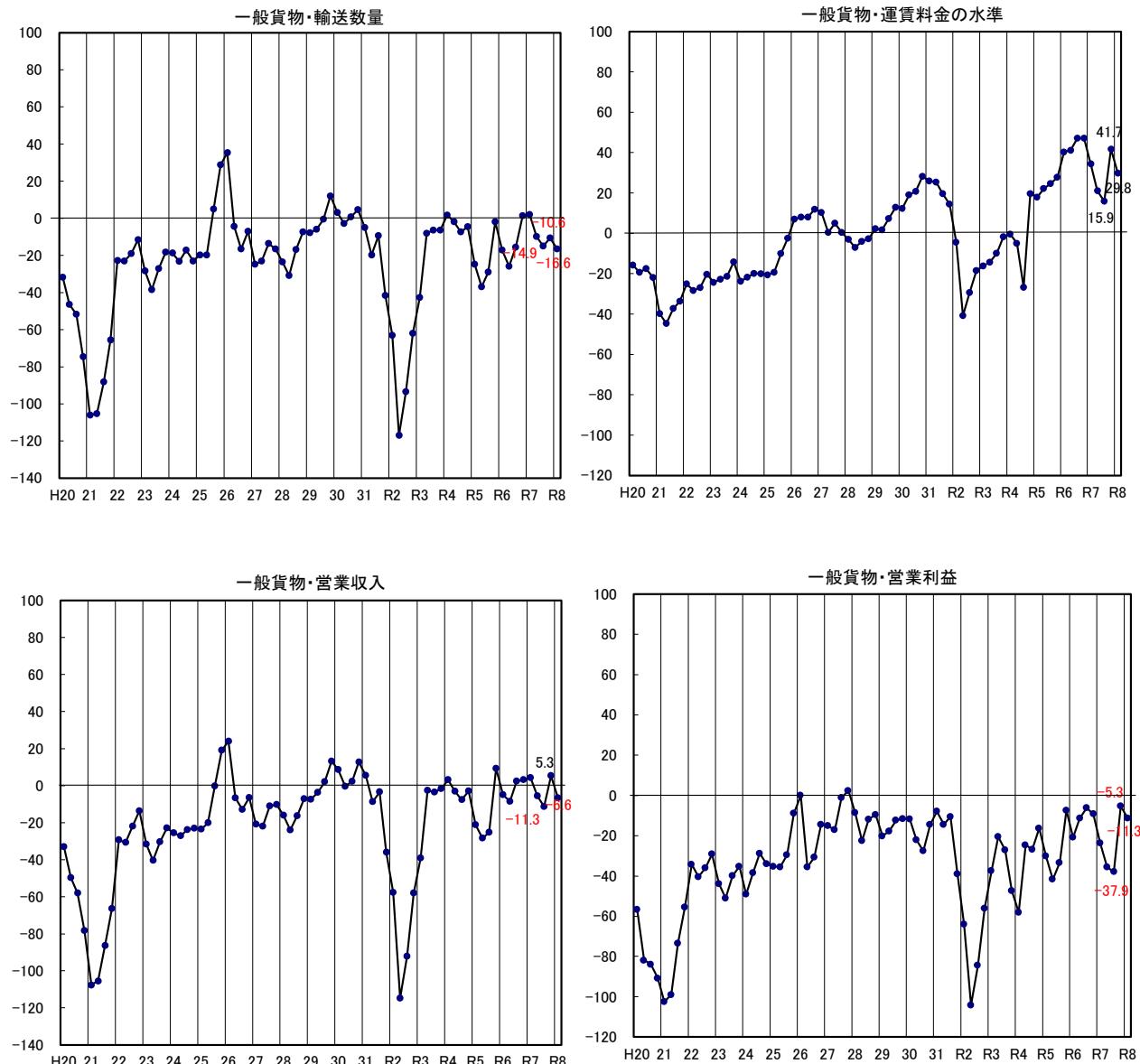
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

共通の概況②



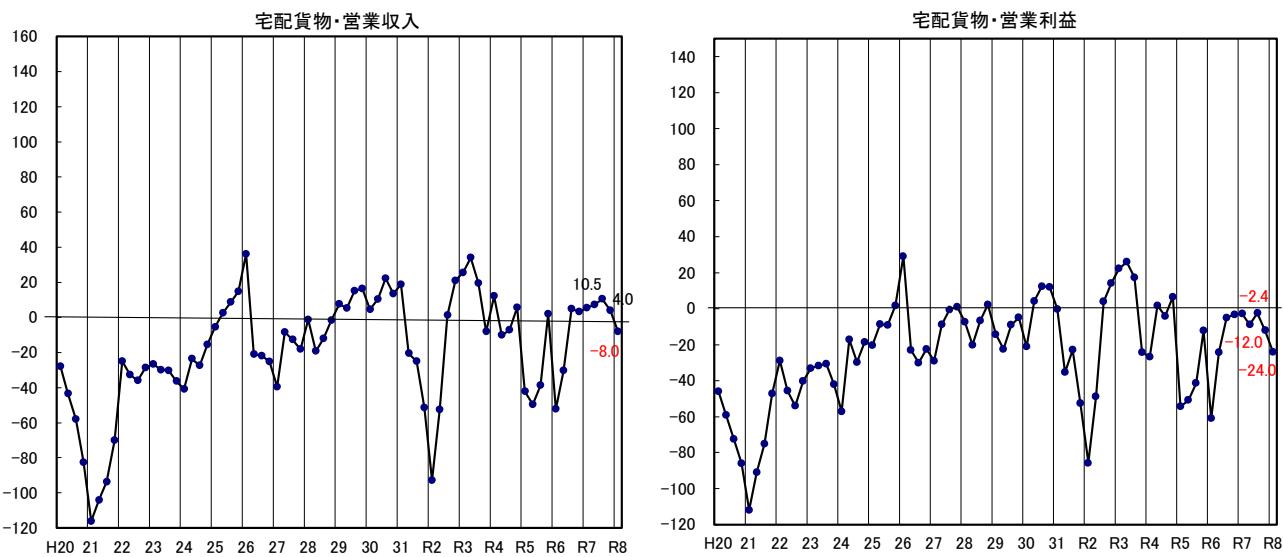
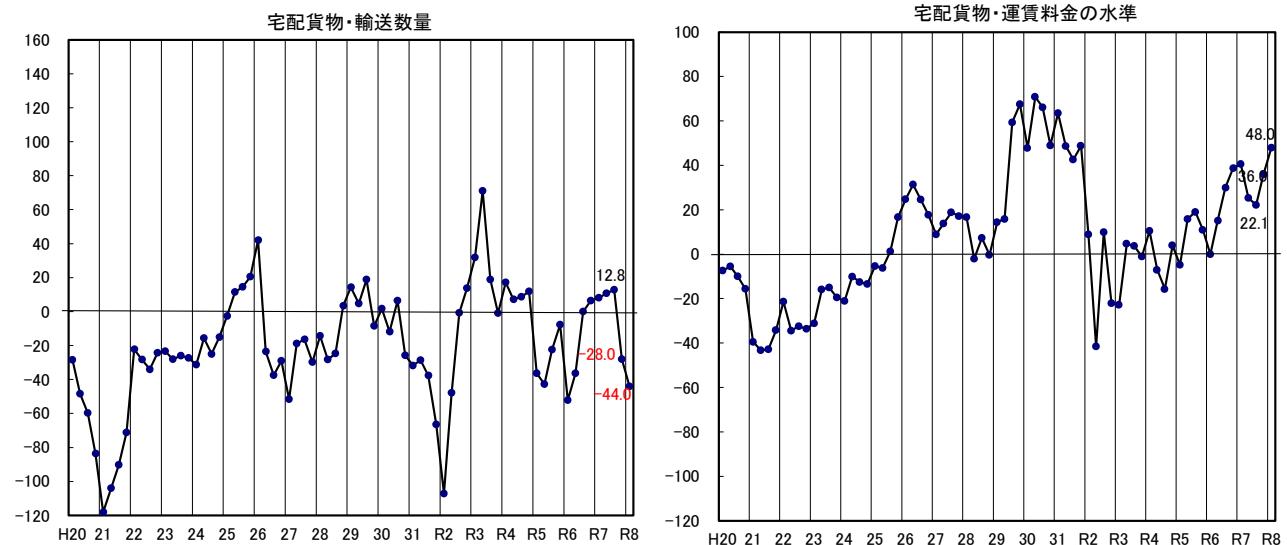
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和7年度第4四半期見通し)

特積貨物



※ 特積貨物として「宅配貨物」及び「宅配以外の貨物」を統合